

# 旧陸軍岡山部隊橋梁演習施設の発掘調査

岡山大学文明動態学研究所 代表者 野崎貴博

岡山大学津島地区には旧陸軍駐屯地関連の建物・施設等がある。橋梁演習施設もその一つであり、岡山大学では2005年に測量・実測調査を実施、地上構造物の記録をしていた。その後、橋台に自生した樹木によりレンガ積み構造物の破壊が進行したため、2023年に樹木を伐採し、あわせて最小限の発掘調査を実施した。

その結果、橋台は、①堅壁の根入れが1.1m以上であること、②堅壁背面に大形のレンガ塊や礫を充填し、真砂土で固めた構築物であることが判明した。また、抜き取られた橋脚については掘り方を検出し、掘り方内には転倒防止のための石材を設置していることを確認した。

2024年度は発掘調査にくわえ、周辺の地下構造物をさぐるため、電気探査を実施する予定である。

## 【参考文献】

中村大介 2007「旧陸軍工兵第十聯隊橋梁演習施設の測量調査」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2005』pp.1-4

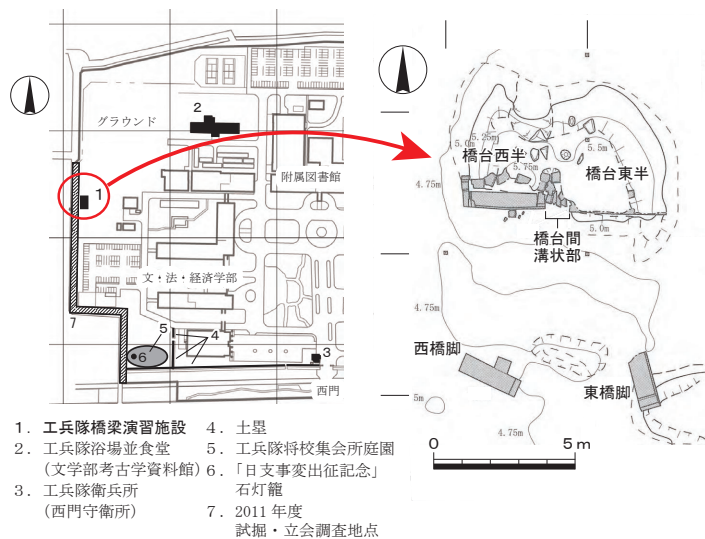


図1 橋梁演習施設の位置

図2 橋梁演習施設平面図



図3 橋台上で成長した樹木



図4 橋台実測図（中村2007）より転載

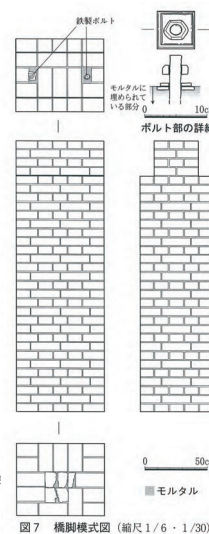


図5 橋脚実測図（中村2007）より転載



図6 橋台周辺の完掘状況（南西より）



図8 橋台前面の擁壁根入れ状況（南より）  
地中構造物が1.1m以上入っていることを確認



図10 橋台に使用されたレンガの刻印



図7 橋台背面の状況（西より）

擁壁側はレンガ塊、スロープ側は大形の礫を充填している

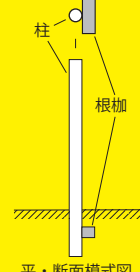


図9 西橋脚抜き取り穴と根枷の石材（西より）  
破線は抜き取り穴の掘り方。左は抜き取り穴の埋土

## 根枷（ねかせ）とは？

電柱の転倒や沈下、傾斜を防ぐため、電柱や支線の地中部分に取り付ける支持材。（中略）根枷を入れることで、傾斜に対して抵抗し、土中に根枷が食い込むことで支柱の倒れを防止する。

「電気設備の知識と技術」  
<https://electric-facilities.jp/denk7/ne/004.html>  
（取得日2024年4月10日）



より 平・断面模式図